

令和4年度第1回 学校運営協議会 議事録

校名	府立難波支援学校
校長名	益子 典子

開催日時	令和4年 7月 19日(火) 13:30 ~ 14:45
開催場所	難波支援学校 校長室
出席者(委員)	中島 委員(副会長)
	辻 委員
	藪根 委員
出席者(学校)	校長、樋口 教頭、岡田 教頭 他4名
傍聴者	申出者なし
協議資料	別紙のとおり
備考	新たな支援学校開設に伴う通学区域変更について報告を行った。

議題等(次第順)

- (1) 学校経営計画について  
別添資料に基づき、学校長及び首席から学校経営計画の内容、1学期終了目前時点での進捗状況等の報告を行った。
- (2) その他  
授業アンケート結果について

協議内容・承認事項等(意見の概要)

- (1) 学校経営計画に関する主な意見  
中島委員)  
・学校経営計画全般について。専門用語が少なく、今までと比べてとてもわかりやすい。若い先生方に伝わると思う。  
・学部間交流について。素晴らしい内容。自分の考えをうまく伝えられない子どもの発表機会が与えられたらよりよいと思う。  
・タブレットが9割の子どもに行き渡っていると伺ったが、本当に良いことだと思う。  
・成人になってグループホームに入所したときなどに、一人での時間を過ごす術を在学時から習得しておくのは非常に重要。  
・在学時からタブレットを使いこなせるように教えていただきたいと思う。
- 辻委員)  
・「めざす学校像」について、「はたらくよろこび」を「やくだつよろこび」に変えたことで、幅が少し広がったと思う。  
・「つながるよろこび」から「まなぶよろこび」、「やくだつよろこび」とつながっていくことで、社会参加という目標部分がより具体的になったという印象がある。  
・小中高一貫教育活動について。各学部ごとのシラバスの検討から、各学部のつながり、全体としての方向性の検討段階に入ったという印象がある。これまで培った素地、教育力に基づき、各学部でやるべきこと、目指すことを検討し、報告してほしい。  
・学部間交流について。年長の児童・生徒との話が本人に与える影響力は大きい。  
・子どもにとって子ども同士のグループの中で学ぶことも少なくない。年長の子のリーダーシップが醸成される機会にもなる。  
・学部間交流を行うにあたっては、各学部の子どもに対する教育的意図をもち、その「意図」を意識しながら進めてほしい。  
・ICT教育については、機械は行き渡っているが、教える教員によってICTの取扱いに得手、不得手があると思う。引き続き、教員間でICTを扱う力のギャップが生じないように工夫してほしい。  
・人権教育について。アンガーマネジメント等の研修を予定しているが、そういった機会を活用して子どもたちのイライラやトラブル解消に役立ててほしい。
- 働き方改革について。これは難しい問題。単に長い、短いだけでなく、教員一人一人の意識によることも大きい。  
・「土曜日に出てきて仕事する方がはかどる」という方もいると聞けるが、社会人として他者と解離しない範囲での働き方、ストレス解消方法を考えてほしいと思う。
- 藪根委員)  
・「めざす学校像」について。「やくだつよろこび」のフレーズがすばらしいと思う。  
・学部間交流での取組みの成果として、「先輩になって後輩ができた」という意識が高まっているように思う。  
・人権教育について。私がPTA役員だった当時、保護者と教職員間の協調バランスが崩れた時があって、子どもの教育にとってよくない影響を及ぼす事態になった。そういう意味でも、アンガーマネジメントや人権教育の研修に取り組んでいただけるのはありがたい。  
・PayPayなどで頻繁に買い物して保護者に心配かける子どももいると聞くので、「キャッシュレス」についても「学ぶ機会」をお願いしたい。
- (2) 授業アンケート結果について  
中島委員)  
・「率直なコメント」で概ねよいと思う。少数だが、厳しい意見もみられるようなので、そういう意見を大切にしてほしい。